



校訓「自主・協調・明朗」平成28年3月25日

# 日新中学校だより

尼崎市立日新中学校長 尾知山光郎

## 第54回卒業証書授与式 168名が「日新中卒業生」に

3月11日(金) ご家族と地域・関係者等ご来賓の皆様にご臨席いただき、第54回卒業証書授与式を厳粛な雰囲気の中で行うことができました。ご参加いただいた皆様、式典の挙行にご協力いただいたPTA及び保護者の皆様方にお礼申し上げます。おかげさまをもちまして、168名が「日新中学校卒業生」になりました。校長式辞において、今年度卒業生が日新中学校の歴史を創った功績にふれた後、「日新」という学校名が、今後の人生においてよりよく生きる指針となるように願うメッセージを贈りました。在校生代表の阪本麻衣(2年)の送辞に対して、卒業生代表で前生徒会長の原義人の答辞の後、卒業生全員による感動的な歌唱2曲の演奏を返して、厳かな儀式を締めくくってくれました。

## 高校入試・進学状況について

兵庫県公立高等学校入学者選抜(入試)が3月12日(土)から行われ、19日(土)に合格発表がありました。昨春、大きな制度改革・学区拡大があり、学区(普通科を受検できる通学区)が西宮市、伊丹市、宝塚市、川西市、猪名川町、三田市、篠山市、丹波市と併せて第2学区という範囲に拡大されました。一昨年まで単独選抜(学校ごとに合否を判定する方法)であった普通科単位制(県立尼崎稲園高校や県立西宮高校など)や総合学科(県立武庫荘総合高校や県立西宮今津高校など)の高校も複数志願選抜校になるとともに、「その他校」合格という仕組みがなくなり、出願後の志願変更では、単独選抜校同士または単独選抜校と複数志願校の第一志願校の変更あるいは複数志願選抜の第2志望のみ変更できる、といった制度改革でした。

尼崎市(旧尼崎学区)を含む第2学区における、普通科(単位制を含む)と総合学科の複数志願選抜の結果を見ると、合計定員7,220名に対し、7,965名が受検し、第1志望合格者が6,306名、第2志望合格者が914名、合格者合計7,220名で、今年は定員割れした高校はありませんでした。第2学区全体での不合格者数は745名で、不合格者の大半は、併願受験で合格した私立高校に入学することになると考えられます。3月26日(土)に行われる定時制高校再募集入試に挑む生徒もいますが、ほとんど全員の進学先が決定しました。本校生徒の35%は2月受検の公立高校(推薦、特色選抜、多部制 期入試)または特別支援学校、私立高校への進学が決定し、64%は3月入試で決定しました。

## 平成27年度が終わります お力添えありがとうございました

本日3月25日(金)午前中に修了式を行い、生徒に修了証・通知表を持ち帰らせます。一年間、保護者の皆様方、地域の皆様方にご協力、ご支援いただき、ありがとうございました。

## 平成28年度 始業式は4月7日(木) 入学式は4月11日(月)

平成28年度は、4月7日(木)午前8時20分までに登校し、始業式で始まります。新1年生を迎える入学式は4月11日(月)午前10時開式予定です。

## 1年間を振り返り、次に進む準備をする春休みに（修了式式辞の趣旨）

今日で平成27年度の授業を終わります。12日間の春休みを経て、学年が上がります。大人に近づくために、春休み中にしっかり準備しておいてほしいものです。

春休み中にできる準備とはどんなことでしょうか。夏休みや冬休みと異なり、春休みは学年が変わる時期です。1年間を振り返る機会です。十分でないところへの努力をしましょう。例えば、文字や数字を読みやすく書けるか、小学校で学んだこと、中学校1年の学習事項・基礎基本をやり直す勉強です。基礎を固めておくことは、新学年の勉強に役立ちます。

あいさつ、言葉づかいや整理整頓など、人としての道徳的・社会的な力についても、社会を生き抜く力が十分でないなら、大人になって生きていける力を付けるようチャレンジしましょう。

逆に、教科学習や部活動等で高い目標に挑戦したい人もいるでしょう。得意なところについては、例えば、高校入試問題、スポーツでの市や県の選抜選手への挑戦など、高みをめざす挑戦もしてみましょう。

自分が何ができるようになったか、正しく評価して、自分を成長させるように、春休みの12日間を使いましょう。

### 4月の主な予定

月	火	水	木	金	土	日
4 春季休業	5 春季休業	6 春季休業	7 始業式・着任式	8 離任式	9	10
11 入学式	12 対面式 2・3年身体測定等	13 1年内科検診等	14 3年内科検診 生徒会専門委員会	15 1年クラブ紹介	16	17
18 全校朝礼	19 3年全国学力・ 学習状況調査	20 木曜時間割 尿検査	21 5時間授業 (水曜時間割) 尿検査	22 1年交通安全教室	23 授業参観日 PTA 総会・ クラブ育成部総会	24
25 1・2年3時間授 業・家庭訪問 3年旅行前日指導	26 3年修学旅行 1・2年3時間授 業・家庭訪問	27 3年修学旅行 1・2年3時間授 業・家庭訪問	28 3年修学旅行 1・2年3時間授 業・家庭訪問	29 昭和の日	30	5/1
5/2 1・2年3時間授 業・家庭訪問	5/3 憲法記念日	5/4 国民の休日	5/5 こどもの日	5/6 4/23(授業参 観日)の代休日	5/7	5/8

### 5月の主な予定

- 6日(金) 授業参観日(4/23)の代休日
- 12日(木)～13日(金) 1年宿泊学習
- 28日(土) 体育大会

## 学校関係者評価（裏面をごらんください）

学校評価のうち、概要を3月10日号でお知らせした自己評価を踏まえた、学校関係者評価委員(保護者代表1名、地域代表者2名、学識経験者(教育行政経験がある人権擁護団体代表者)1名、本校元校長1名)による学校関係者評価を集約したものをお知らせします。裏面をごらんください。

# 学校関係者評価

## 重点1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

授業改善アドバイザーによる授業改善、校内研修会、教科研究会で学んだことが生かされ、教員の指導力が向上した一方、各教職員の教え方の差があり、生徒の学習意欲に影響していると感じる。生徒に確かな学力を身につけさせるには、授業改善はもちろんのこと、学習意欲の乏しい生徒や学習ができにくい環境にある生徒にいかに関心を持って学習意欲を持たせ、家庭学習を定着させるかなどが大切であり、家庭との連携を密にして生徒の学習に対する意識を改善することが必要である。個別指導に力を入れ、放課後学習等の取組や「日新検定」「チャレンジ」「eラーニング活用」による家庭学習の促進等の取組が大いに効果を出してきたと見られ、特に3年生(卒業生)が好結果を示した。新2・3年生にも、継続的な手立て(言語活動の充実)で、今後が期待できる。

## 重点2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

親の庇護のもとに育っていた小学生を脱皮し、中学校3年間は学年ごとに心身の成長発達が著しく多感な時期に、「道徳の時間」を重視した組織的な指導および学級・学校活動を通して、又、校長先生の訓話や振り返りシートなどで心の教育の取組を進め、成果が出ていると思われる。大小の問題行動やいじめを耳にするが、早期発見できた場合は適切な生活指導が行えている。中学生の時期は先生に相談するのは難しいが、アンケートの結果で「先生に相談する」「相談できる先生がいる」「相談して希望が持てたりしたことがある」の割合が低く、相談相手に教師の出番が少ないと思われる。生徒の悩みや相談に対応できる先生を育成する研修等に取り組んでいただきたい。心の教育の充実を図る上で、スクールカウンセラーを十分活用してもらいたい。自分を大切にすること、そして積極的に自分を表現し相手を思いやる心を育てることが重要である。

## 重点3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

他の地域と比べて、流感の蔓延はなく、挨拶もよくしていると感じる。体づくりについては、体育・部活動などで「運動が好き」な生徒を育成されている。長時間の学校生活を楽しく意欲的に学び、集団生活・部活動をこなすには、朝食を食べる習慣に基づく健康な心と身体が必要で、成長著しいこの時期にこそ、骨・筋肉・血液などで構成される身体のこと、必要な栄養素・運動の大切さを生徒に伝え、朝食を食べる習慣を含め、家庭の協力が必要である。学校の活性化には部活動も重要である。指導者の確保など課題もあるが、生徒のニーズにあった部を新設するなどして、所属率の向上に努めていただきたい。また、複数顧問制については、活動時の安全面の確保や教師の負担減などの面から、今後とも拡充していただきたい。

## 重点4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

登下校中の事故に気をつけることが重要であり、車の交通量も多い中、道の端を歩く、無理な踏切横断をしないなど、指導が徹底されている。「自転車安全教室」の開催やJR踏切の登下校の指導や校内安全点検、巡回などの取組や防災避難訓練や非常事態への危機管理能力の育成等に取り組まれていることが生徒にも浸透していると思われる。近年、自転車事故による賠償問題が社会問題化しているが、最もその被害者・加害者になりうるのが中学生だと思われる。入学時の「交通安全教室」の実施など、安全教育の高揚を図る取組は重要であり、今後とも継続していただきたい。校内での負傷事故減少への取組や「自分の命は自分で守る」防災教育の一層の充実を努めていただきたい。

## 重点5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む

教員一人一人、言動に留意しているが、家庭・地域からの信頼はすぐにはできず、3年計画の積み上げと継続である。授業中以外には先生に訊きづらく、塾に行かなくてはならない雰囲気がある。家庭・地域と連携し、個々にやる気を起こす方策を考え、実行することが必要である。日頃から「日新中学校だより」が配布され、地域にとっても開かれた学校として情報提供いただき、生徒の学校生活の一端を知ることができ、登下校時の見守りもできる。学校の取組を「学校だより」などで発信するとともに、体育大会や文化発表会などの学校行事に参加してもらおうこと、また、地域の人々は地域で生活する生徒の姿を見て学校を評価する場合があるので生徒指導の充実を図ることも重要である。学校・学級適応が困難な生徒も多いという課題への取組を期待したい。将来を担う若い教師の育成については、学校挙げて取り組んでいただきたい。

【次ページに続く】

## 教育目標

年間を通し「学校教育目標」「校訓」「めざす生徒像」について、機会あるごとに校長先生をリーダーに諸先生方は生徒たちに自主性を育て、自律的学習者を育てる取組、協調性・明朗さを持った生き方・学び方について取り組まれており、生徒の中にも浸透していると思われる。「校訓」「めざす生徒像」を各教室に掲示したり、学校行事等で意識付けを図るなど「学校教育目標」を生徒に定着させるための工夫や取組がなされていることは評価できる。朝礼や集会等で校訓を意識づけることにより、生徒がそれを目標とし、行動していると思われる。教育目標の達成は、生徒と教職員が共有し、共に活動することが大切である。教職員がひとつになって明るく笑顔の多い学校づくり(城づくり)に励んでいただきたい。明るく、健康で自立ができる個々である生徒を育てていただきたい。

## 研究テーマ

高校入試が多様化・広域化していく中で、生徒が未来に「夢や志をもって自立をめざす『自律的学習者』を育てる指導」という研究テーマは時宜を得たものである。進路を意識させ、自分がどのようにしたらいいのか考える指導を行えたことで、自ら学習する生徒は増加している。小中合同研修など学校が意欲的に研修に取り組んでおられる姿勢が感じられる。「夢や志をもって自立をめざす『自律的学習者』を育てる指導」をテーマに基本的な生活習慣の確立を図る指導、学習指導、進路指導を進める取組から生徒に進路を意識し学力を高める努力をする生徒が増えてきたことは今後さらに期待がよせられる。「『自律的学習者』を育てる」は、少し固い、難しい言葉だが、教職員一同が理解することが大事だと思う。相手を思いやり、自分に自信をもてる生徒を育てることが大切である。

## 自由記述

中学校3年間は、子どもから大人への入口で、その3年間に心を育て意欲的に学習に取り組み、部活動で成果を上げることはたやすいことではありません。校長先生をはじめ諸先生方の熱心な取組の下、日新中で学んだことが血となり肉となると思う。

以上